

キタ！からきた



第185号

※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修会、
申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。
kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛

だより



「こんなところに社会福祉士がいた！」

<大阪北支部・会員リレー紹介 046> レポーター（森口 浩）

カムバック投稿
紙配信されていなかった
記事を再投稿します！
令和5年11月号より

今回、現在就労継続支援事業所「ポリフォニー」で生活支援員をされている田上結稀さんをご紹介します。大学卒業後、専門学校の運営業務に携わっていた田上さんですが、様々な事情で学業を続けられない学生の存在を知り、人が置かれている環境と生きづらさの関係に気付き、そこへの関わりについて考えたことが社会福祉士を目指すきっかけになったそうです。そこで一旦仕事を辞め、昼間は救護施設や放課後ティーサービスなど複数の分野でアルバイトをすることで支援者として経験を積み、夜は養成校に通学し、2年前に社会福祉士資格を取得されました。

現在は利用者のクッキーやフィナンシェなど、お菓子作りをサポートしながら販売の範囲を広げていくことにも力を入れておられ、地域での対面販売の他、SNSを活用した宣伝活動に取り組んでおられます。障害を持つ人が作るものだからと安価で平凡な商品や販売方法にするのではなく、品質の高さに見合った価格設定やおしゃれなパッケージにこだわり、商品が正当に評価されることが利用者の自信や自己実現につながるとして、社会福祉士がそこに関わることに価値を見出しております。

社会福祉士の資格取得後、さっそく入会して基礎研修に進まれ、「他の会員からいろいろなことを教わりたい」と社会福祉士としての成長に意欲的な田上さん。ご自身が思い描いたものに向かって真っ直ぐに突き進む熱意や行動力に、お話を聞いていてとても元気をもらいました。



大阪北支部 司法福祉研修（第2回）報告

『矯正施設における社会復帰支援及び地域生活定着支援センターの役割』

普段は高齢者分野にて勤めており、矯正施設や地域生活定着センターとの連携は今までなく関心があり参加させていただきました。依存症、孤立・孤独、障害・特性、生育歴・生活歴の上に、不十分な治療、能動性の欠如、悪い仲間など重なり合う課題と不適切な方法を選んでしまう背景を理解した上でアセスメント術はとても難しいだろうなと思いながら聞いていました。

「1人の人」として尊重した支援。そんな福祉的な関わり方が、刑務所の中でも特性に応じた待遇や社会復帰支援体制の構築が展開されはじめ、司法と福祉がもっと密な連携により、受刑者が地域との関係性の遮断にならないよう取り組むべきだと感じました。

現在私が支援している方も、若い頃に刑期を終えた方ですが、サービスだけの資源だけでなく地域の資源にもつなぐ橋になれるよう努めます。



★大阪北支部公式LINEアカウントのお知らせ

（※他支部の方の登録も大歓迎です！！）

情報が早い！情報が手元に届く支部公式LINEです。紙の広報誌よりも早く情報が届きます。

LINE「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するか QRコードをスキャンしてください。

